



# ラーチャブルック ร่ำพญานกข

※「ラーチャブルック」はタイを代表する花、ゴールデンシャワーをタイ語で表現したものです。

教頭 大槻 誠

## 言葉の力

中学校国語の教科書に「言葉の力」という随筆があります。筆者は染織家の志村ふくみさんから美しいピンク色に染まった着物を見せてもらいます。桜から煮出したというので、てっきり花びらを煮出したのだと思ったところ、桜の皮から、それも花の咲く直前の皮から煮出さないとこのようなピンク色には染まらなると説明を受けます。筆者は、花びらしかピンク色に見えないが、実は桜は木全体で春のピンク色になろうとしていたのだと気づきます。そして、それは人が話す言葉と同じで、言葉の一言一言には、言葉を発するその人の人格がどうしても出てしまうのだと考えます。美しい言葉は、発している人間によって美しくなったりそうではなくなったりするのだと結論付けます。

ですから私も、朝から子供たちに向かって、一生懸命「おはようございます。」と挨拶をします。そうしないと、子供たちの発するピュアな人格の言葉に跳ね返されてしまいそうです。



## 子供の力

突然ですが、私には孫が3人います。2歳の孫は今、ブロッコリーを「てっぷきー」と言えるようになりました。動画を見る度に幸せな気持ちになります。なんでこんなに可愛いのでしょうか。答えは簡単です。孫に限らず、子供は幸せエネルギーをたくさん発しているからです。そのエネルギーを浴びた人は自然に幸せな気持ちになります。

朝から約30分の間、2,000人の子供たちが登校してきます。「おはようございます。」を30分言い続けると喉が枯れてきます。と同時に子供たちの幸せエネルギーを30分も浴びて、体の中に温かい気持ちが充満します。2,000人の子供たちがご家庭で充電した幸せを、私たちはお裾分けしてもらっています。4月の全校集会で話す機会がありました。私は子供たちの挨拶が、成長に合わせて違っていて新鮮だと話しました。その後、先生が学級で話をしてくれたのでしょうか。低学年の児童が私の近くに来て下からのぞき込むように見て、目を合わせて頭をしっかりと下げて「おはようございます」「さようなら」ときちんと挨拶をしたら、私はじいちゃんモードになってもうふにやふにやです。おのずと体が低くなり、挨拶してくれてありがとうという気持ちになってしまいます。



今、6年生を中心に、自発的に朝や休み時間の挨拶運動が始まっています。最初は照れくさそうな彼らでしたが、だんだん自信もついてきて、今は誇らしげに挨拶を交わしています。そして子供たち同士の挨拶の空間は、みんな笑顔で温かい空気に満ちています。

今月の生活目標は「あいさつの力で学校をさらに元気にしよう！」です。まさしくそのとおりです。みんなちゃんと挨拶をしましょうではなく、あなたの挨拶は、家族や先生や友達やそして自分も幸せにしていますよ。挨拶をして、みんなを幸せにしてください。そして自分も幸せになりましょう。と伝えていきたいと  
思います。